

# 山形県技術士会だより

巻頭言 技術者の誇りを胸に県土発展に寄与しよう 山形県支部長 三森 和裕（建設部門）

山形県支部 支部長  
三森 和裕



平成27年度年次大会  
新支部長挨拶

昨年度の年次大会で、三森新支部長が就任、新体制が発足し、今年2年目を迎えます。

目次：	
巻頭言 支部長挨拶	1
技術者倫理について	2
会員寄稿	3
現地見学会報告	4
〃	5
平成27年度 山形県支部年次大会報告	6
太田勝之さんを偲んで	7
お知らせ	8
編集後記	8

皆様の多大な支援により、大過なく1年を過ごすことができました。本職2年目にあたり、昨年度の取り組みについて検証しながら、今年度の目標や新たな課題を述べたいと思います。

①会員増と組織率の向上について

昨年度の技術士試験において、県支部内では技術士合格者が14名程度、技術士補は国立高等専門学校機構鶴岡高専の学生たちの積極的な挑戦もあり19名以上の方が合格しました。東北本部管内でも特筆すべき成果だったようです。技術士会の活動を理解していただき、共に同志として歩んでいけるよう期待しています。

②研修の継続と実践について

多岐にわたる研修を重ねながら時代の変化に対応できる、技術士自らのレベルアップを図ってきました。具体的には、つくば市の高エネルギー加速研究機構や関連の研究施設を訪問し、実践的な先端研究を教授していただきました。また、技術教養講座は、一般の方々と技術者を結ぶ講座として20年近くに開催されています。テーマも、技術開発・新製品開発を効率的に行う開発技法としてタグチメソッドの実践的活用法や、活火山と災害との関連について実施しました。昨年4月に気象庁より蔵王山の火口周辺警報が出され、6月には噴火予報に引き下げられたものの、火山の現状を知るとは、県民の大きな関心ごとでした。この講座では、80名の参

加を得ましたが、参加費が無料の研修会でもあり、もっと多くの方々へのアピールが必要でした。

また、昨年度は大手ゼネコンによる基礎工事データ改ざん、タイヤ会社の免震装置などの偽装、ドイツ自動車会社のアメリカにおける排出ガス偽装など、世界をリードする会社の倫理観欠如、コンプライアンス違反には唖然とさせられました。このような、改ざん、偽装はいずれは、国民へ多大な負荷を与えるだけでなく、地球環境に大きく影響を及ぼす、あってはならない事項です。このような事態に技術士はどのように対応していくのか。「難しい」と決めつけるのではなく、一人一人が悩んで解決策を見つけることが求められています。まさに、プライドと誇りを胸に頑張ってもらいたいところ です。

③産学官との連携と強化について

本会の活動に連携し、支援してくれる協賛企業が、新規に13社増え、あわせて27社に広がりました。ここに厚く御礼申し上げます。また、広報活動を通して、技術士会の組織や業績を認知していただくために、簡単なパンフレットを作成し、県内各部所に配布することを試みましたが、今年度にもっと迅速にアピールしていきたいと思 います。

④豊かな山形県の構築のために  
技術士・技術士補を多く輩出することは勿論ですが、県内の政

(1 ページから続く)

策実現のための諸課題に、少しでも貢献できるようにしていきたいと思えます。具体的には、来年度開校予定の山形県立産業短期大学校エンジニアリング学科への支援があげられます。技術者としての倫理教育は勿論のこと、総合的な見地からの技術習得への支援などにも参画できればと思っております。二つ目は、観光や農業政策へのかかわりは勿論ですが、再生可能エネルギーの導入による環境負荷軽減、メイドイン山形のものづく

り、やまがた森林ノミクスの推進などによる循環する県土創造への技術支援を実施します。これらは、個々または、技術士のいる企業としては実践しているのですが、支部としてはまだまだ活動の余地を残しているようです。

⑤プロフェッショナル集団としての社会貢献活動の実践について

個々が社会の一員として、自らの技術を生かした社会貢献活動も重要な課題であり、復興支援もその一つかもしれません。地域での専門を生かした交流も大事なことです。6

月には『日本大震災5周年シンポジウム ～(仮)復興の現状と課題・未来～』が日本技術士会主催で開催される予定であり、被災状況と復興への取り組みのみならず、これまでは、タブー視されてきた放射能汚染問題と今後の取組などにも焦点をあてて報告される予定です。まさに、技術者、技術士として力量を発揮し社会にアピールしていく機会になることでしょう。

今年度も、仲間の結束と、社会の発展のために邁進しましょう。

## 技術者倫理について

大岩 敏男（環境部門・東北本部倫理研究会県支部担当）

昨年度は、免震ゴム性能の偽装問題や杭打ちデータ偽装問題が大きな社会問題となり、技術者の倫理が問われました。私が技術者倫理に直接関わりを持つようになったのは、平成25年の春に安彦前支部長から、山形県支部の技術者倫理の担当者になり、年1回開催される東北本部倫理研究委員会（SGEE（Study Group Engineering Ethics）の会）」と各県支部との合同会議（研修会）に出席してもらいたいとの話があったことでした。毎年度の合同会議では、各県の技術者倫理に関するセミナーや講演の開催状況及び大学や高専等におけるJABEEや技術者倫理の講義状況についての報告が行なわれます。さらに、年ごとに課題を設定して話し合いを行います。

平成25年度の合同研修会では、各県の担当者全員がジョン・フォージ著、佐藤透・渡邊嘉男（技術士、SGEEの会会員）訳「科学者の責任 ー哲学的探究ー」（産業図書）を読み、各自の考えや感想を取りまとめて報告し、質疑を行うものでした。同書は約350頁からなる哲学書で、読み終わるまでだいぶ時間を要しました。しかし、内容はマンハッタン計画などを取り上げ

ており、興味深いものでした。マンハッタン計画とは、第二次世界大戦中にアメリカで進められた原子爆弾の開発・製造計画で、結果的に広島と長崎に原子爆弾が落とされました。この計画に携わった科学者の責任に対する考察などを行っており、過去が問題となる「後ろ向き責任」と未来が問題となる「前向き責任」について述べています。また、「広い見方」として、「科学者が自分の研究成果の影響について知らなかったとしても、知っているべき事柄又は知るべき立場であれば責任を問われる」という考え方についても述べています。私は環境部門の技術士であり、環境に関する現実の業務に置き換えて考察を行いました。

平成27年度においては、直江清隆・盛永審一郎編「理系のための科学技術者倫理」（丸善出版）の各章が各県支部担当者とSGEE会員に割り振られ、各自が読後感想を報告しました。私が担当したのは、第7章「リスクと意思決定」です。リスクは一般に「ハザード（有害性・危険性）×（ハザードが生じる）確率（※）」で定義され、ある事柄のリスクが十分小さく「受け入れ可能」と判断されると世の中に供給され

ます。しかし、リスクの評価には不確実性が伴い、それで事故を起こした例として、スペースシャトルチャレンジャー号や福島第一原発などが挙げられます。また、リスク評価の現実への適用には、例えば、自分で死や被害をコントロールできるか、そのリスクを自分の意志で選択したのか又は受動的にさらされるのか、一度に大勢の人命が失われるのか、恐怖感があるのかなどによってバイアス（判断が系統的にずれること）が生じます。私はこれまでリスク評価について説明する際には、前述（※）の定義を主に説明し、バイアス的なもの（価値観の差異）を従としていました。しかし、事例ごとに、不確実性、価値観の差異などを丁寧に整理していくことが求められることだとあらためて認識させられました。

平成25年度の合同会議（研修会）の出席をきっかけに、出席率は良くありませんが月1回仙台市で開催されるSGEEの会にも参加しています。以前からの会員である本県支部の方もおられます。参加者が持ち寄った事例等について話し合いを行い、SGEEの会として結論を出すのではなく、多くの視点からの意見を出し合いながら問題点を

(2ページから続く)

掘り下げていこうというのが目的です。このような話し合いは私たち技術士にとって必要なことであると思います。

また、私の技術者倫理の関わりについては、平成24年に60歳代前半で急逝された矢萩三郎技術士の後任として、山形県立産業技術

短期大学校で年2回の技術者倫理の講義を行っています。ほぼ20歳の学生にとっては技術者倫理といっても実感がわかないことであると思っていますが、最近の事例を多く用いるなどして伝えようとしています。

私も含めて技術者倫理について自分一人で学習するということは

ほとんどないと思います。このことから、山形でも何らかの形で、皆様と技術者倫理についての意見交換をできればと思っていますところ

以上

## 会員寄稿

そくしんぶつ

～即身仏～

井上 憲治（建設部門）

即身仏とは、即身成仏、すなわち修行して肉身のままに仏になることで、この即身仏が数多く出現した山は湯殿山である。

即身仏になるには、米、麦、粟、キビ、大豆を断つ五穀断ち、その後さらに、蕎、ヒエ、小豆、とうもろこし、芋などを断つ十穀断ち、木食修行を千日以上続け、体の脂肪分を取ると、死んだ後の肉体が腐敗しにくくなるという。

最後には断食とし、生きたまま土中に入定する。行人が死んでから三年三ヶ月後、遺言に従い塚を掘り、即身仏として祀られる。

生前から修行を積み重ね、飢餓や悪病に苦しむ衆生を救うために、身を捧げたのであった。亡くなってから遺体を保存するミイラとは、一線を画する。

山形県の出羽三山には、修験道や神仏信仰など古くからの歴史があり、即身仏の成り立ちや経緯は私等凡人には解らないことが多い。専門家によれば、湯殿山開基の弘法大師が、高野山奥の院に入定し、即身仏になったと信じられ、多くの行人が、即身仏を志したとある。

江戸時代後期、湯殿山の一世行人の中に、即身仏となる人が多く現れた。彼等は専門の僧にあらず、修験最下位、湯殿山大権現に帰依、朝日村（現鶴岡市）にある別当二カ寺、注連寺、大日坊ちゅうれんじ だいにちぼうに入門し、海号を与えられ、俗世を離

れた、その身一代限りの行人であった。行人とは、本来修行者をさす言葉であるが、その実は寺の雑務をこなす役職で、現代の言葉でいえば、ノンキャリアやたたきあげといったところであろうか。生涯妻帯せず、妻帯者は離縁したという。

日本に現存する即身仏は十六体、そのうち八体が山形県にあり、二体が新潟県（村上市、鹿瀬町）にある。山形県にある八体は、朝日村に三体{注連寺、大日坊、本明寺}、鶴岡市に一体（南岳寺）、酒田市に二体（海ぞうこういん向寺）、白鷹町に一体（蔵高院）、米沢市に一体（個人所有）である。特に湯殿山別当の注連寺、大日坊は即身仏の本山と言える。

湯殿山の宝前一・五キロ、梵字川の源流でもある仙人沢は、注連寺、大日坊の行場であった。ここに一千日単位で入山し、木食修行を続けたという。途半ばで挫折した行人も数えきれないようである。

こんな過酷な修行は、現代の私共には考えられないし、その強い精神力、すさまじい信仰心には尊崇の念を抱くのみである。

こんな人間の限界に挑戦した行人の心情に想いをはせる時、大きな力をもらうのである。

私は即身仏の存在は知ってはいたが、五十路に入り、水力発電所の建設工事で、注連寺、大日坊と同じ地区で仕事をしていたので、より深

い関心を持つようになった。庄内地方の即身仏は全てお参りした。特に注連寺はお客さんを良く案内した。名調子で解説してくれた名物オバサン、渡部千代さんも高齢で引退したと聞く。

注連寺の即身仏鉄門海上人は、江戸に出た時、流行していた眼病を治そうと、自分の左眼を抉り取り、隅田川の竜神に捧げたとされている。私も晩年に至り、中心性網膜炎、網膜剥離、緑内障、加齢黄斑変性症疑いと罹患しているが、何とか、しなこく（忍耐強く）生活出来ているのは、恵眼院鉄門海上人の加護であろうか。

また、注連寺は作家、森敦が庫裡に投宿し、のちに小説「月山」で、芥川賞を受賞したことで有名な寺である。境内には、記念碑や森敦文庫もあった。毎年八月に境内で月山祭があり、森敦を偲ぶ会が開かれた。近くで採れた茄子、キュウリ、枝豆、トマトなどを食べながら、故人を偲び酒を酌交す。文学には無縁な私であるが、遠く沖縄からや、作家の新井満氏、女流映画監督も参加して居たし、娘富子さん〔養女〕が挨拶していたのを思い出す。しかし、現在は月山祭も無くなり、森敦文庫も鶴岡市の地元が生んだ先人達の、偉業を讃える資料を展示している大寶館に移設されている。

県内の即身仏で只一つお参りし

(4ページに続く)



## 山形県支部（技術士会）だより

(3 ページから続く)

ていなかった、白鷹町蔵高院の即身仏を、昨年お参りすることができた。常時無人の寺なので、予約が望ましい。昭和五三年十月、白鷹町の日影部落が消滅、無人になるため、一八五四年入定の仏を、百年たったら掘り出してくれという伝承に従い、一二四年ぶりに掘り出

された。入定窟は玉石積みで、六十センチ角、高さ一〇センチだった。今から僅か三〇数年前の出来事である。

命を賭して、衆生の幸せを願った即身仏、行人の心情を考えると、現世の悩みは小さなものであり、心機一転の元気を生み出してくれる。

参考文献 島山 弘著 「湯殿山と即身仏」

## 現場見学会 in 筑波

土屋 勲（建設部門・企画広報委員会）

## 1. はじめに

今回の現場見学会は、多くの支部会員から要望されていました「筑波研究学園都市」へ1泊2日での現場見学会を実施しました。以下に報告致します。

## 2. 現場見学会

## 【現場見学会概要】

日時：平成27年10月16・17日

場所：茨城県つくば市

- 見学：①高エネルギー加速研究機構  
②国土技術政策総合研究所・土木研修所  
③国土地理院  
④筑波宇宙センター  
⑤産総研地質標本館

参加者：26名

見学会の報告といたしまして初日に見学しました、①高エネルギー加速研究機構、②国土技術総合研究所・土木研究所について報告します。

## 3 高エネルギー加速器研究機構

高エネルギー加速器研究機構では、Belle実験施設と放射光科学研究施設（フォトンファクトリー）について見学しました。

私たち人間を含むありとあらゆる物質を形作る「素粒子」をはじめとした極微の世界の謎を解明するために開発された加速器研究施設となっています。

実際に改造作業中の「Belle測

定器」について見学させていただきました。

施設内では、多くの研究者が作業を行っており、海外からの研究者も多く見受けられました。施設通路には、世界40ヶ国の国旗が掲げられおり、国際的な協力体制で進められていることが強く感じられました。

**放射光科学施設（フォトンファクトリー）**は、加速器科学の中核となる研究機関に位置づけられているとのこと。極微の世界を見るため、加速器から発生する明るく波長の短い光「放射光」を用いて、様々な物質や生命を原子スケールで観測する（観る）ことができることでした。この「観る」は、新しい機能性のある材料を開発することができたり、タンパク質の機能を観ることで、副作用の少ない優れた医療品の開発ができることでした。また、様々な分野に用いられるこの技術は、先日記者発表にもなりましたピラミッドを「透視」するプロジェクトにも参加するようです。



写真1：作業中のBelle測定器

## 4 国土技術政策総合研究所・土木研究所

国土技術政策総合研修所では、昨年本支部の技術教養講座講師をしていただきました、諏訪 守様より下水道研究施設の案内をしていただきました。

研究施設では、下水処理で発生した汚泥からエネルギーを生成する研究や藻類を培養させ、そこから燃料を生み出す研究、また、水質環境に関する研究ではメダカを用いた水質環境の臨床確認試験など、様々な研究を見せていただきました。

本県鶴岡市において今年10月から下水消化ガス発電の稼働が始まり、東日本では初めてとなる取り組みとなっているようです。



写真2：諏訪氏による研究内容説明

土木研究所では、**舗装実験施設、振動実験施設、構造物メンテナンス研究センター**について案内をしていただきました。

舗装実験施設では、舗装の性能

(5 ページに続く)

評価や設計に関する研究、舗装の経済的なマネジメントの研究や新しい舗装開発を行っています。評価試験では、実物大の供試体をつくり実際に走行させて解析、評価しているとのこと。実験車両は、ICT技術を用いた無人走行車両により実験を行っていることに驚きました。

また、特殊舗装として、排水性舗装と遮熱性舗装の構造概要および機能効果についての説明していただきました。

ヒートアイランド対策の一環として遮熱性舗装の利用が都市部を中心に進められています。その効果として例えば、東京23区を遮熱性舗装とした場合、都市部の気温低減効果は、正午で $0.8^{\circ}\text{C}$ 以上、午後2時では $0.6^{\circ}\text{C}$ 以上の気温低減効果があるとのこと。実験施設にある供試体では、通常のアスファルト混合物と比べ $13.8^{\circ}\text{C}$ の温度低減効果が確認できました。



写真3：遮熱性舗装の供試体

振動実験施設では、三次元大型振動機により様々な構造物に対する振動実験を行っています。実物大に近いスケールで構造物（供試体）を作り、振動実験を行うことで想定された箇所における変状確認や、想定されなかった小さな変状が実際に観ることができるようになったといいます。これにより、きめ細かな検証とより具体的な対策方法の検討ができるとのことでした。



写真4：振動実験装置



写真5：振動実験施設 大型実験による損傷模型

構造物メンテナンス研究センターでは、撤去予定の橋を活用した臨床研究を行っています。実橋の損傷部材に直接載荷し、破壊メカニズムや残存強度を把握・分析しているとのこと。この臨床結果の多くは、橋梁、構造物などの長寿命化、予防保全に資する設計・維持管理の開発のための基礎データとして活用されています。



写真6：巨大な耐荷力臨床試験装置

## 5. おわりに

本年度から支部役員体制が大きく変わりました。新たな役員体制の中、支部会員の皆様に対し魅力ある企画と様々な情報発信を今後とも持続させてまいります。



写真7：放射光科学施設



写真8：加速器研修施設国際協力体制（国旗掲揚）



写真9：JAXA「こうのとりの実寸模型



## 平成27年度 山形県支部年次大会報告

須藤 勇一（上下水道・建設・総合技術監理部門）

平成27年度山形県支部年次大会・研修会・交流会が平成27年7月3日(金)に山形グランドホテルにおいて開催されました。

## 1. 山形県支部年次大会

昨年度の事業報告及び決算報告、また、支部役員改選されましたので、三森新支部長をはじめとする新役員が報告され、そのあと平成27年度の事業計画及び予算が報告されました。

平成27年度年次大会次第

- ・開会の挨拶 三森副支部長
- ・支部長挨拶 安彦 支部長
- ・来賓祝辞

山形県商工労働観光部工業戦略技術振興課科学技術政策主幹 奥山 賢 様  
公益社団法人日本技術士会東北本部本部長 吉川謙造 様

- ・日本技術士会会長賞受賞報告 太田勝之氏受賞
- ・報告事項
  - 第1号報告 平成26年度事業
  - 第2号報告 平成26年度決算
  - 第3号報告 支部役員
  - 第4号報告 平成27年度活動方針ならびに事業計画
  - 第5号報告 平成27年度予算
- ・閉会の挨拶 梅津 幹事

## 2. 研修会

年次大会に引き続き研修会が行われました。

演題 「自然にひそむ数学」  
講師 国立鶴岡工業高等専門学校  
名誉教授 佐藤 修一 氏

講演の内容は、身近な素数の話から始まり、デジタル符号・フィボナッチ数・黄金比の不思議な関係からオイラーの

多面体定理まで、難しいイメージのあった数学に関して、分かりやすくご講演いただき、たいへん興味深く拝聴しました。私たちが生活している自然界の様々な事象が数学と密接に関連していることを再認識し、数学に対しより一層興味をもたれたことと思います。

## 3. 交流会

研修会終了後記念撮影が行われ、その後交流会が開催されました。

吉川本部長、佐藤講師にもご出席いただき、御高説を身近で直接伺う機会に恵まれました。

また、平成26年度技術士第二次試験合格者10名の氏名が紹介され、会員相互の交流を深め、親睦を図りました。

-以上-



(年次大会)



(研修会)



(交流会)

## 太田勝之さんを偲んで

井上 憲治（建設部門）

平成27年9月7日、日本技術士会山形県支部で活躍した太田勝之さんが、74歳の若さで逝去しました。誠に残念であります。

葬儀は、酒田のセレモニー会館で行われ、出身母体の東北電力OB、学友、町内会、関係会社、工事関係者等多数の方々が参列しました。会場入口には前年に受賞した日本技術士会からの表彰状が飾られ、山形県支部からも生花が贈られました。表彰状の展示は本人の遺言と聞きました。弔辞は、日本将棋連盟本部代表、亀ヶ崎町内会長、東北電力酒田電友会代表、孫5人からそれぞれの感謝の言葉、そして友人代表の鶴岡工高の同級生齋藤信一さんから、朗々とした会場に染み渡る弔吟で送られました。

太田さんは昭和35年東北電力に入社、発電、変電、給電の技術部門で活躍されました。電力会社の電気屋として必須の電気主任技術士の資格をいち早く取り、数少ない第二種資格で、電気工作物の工事、保守、管理業務に腕を奮い、また管理職としても後輩の育成に力を注ぎ、人望がありました。平成10年には技術士試験（電気・電子）にも合格、その時、同じ酒田地区に勤務していた会員の江目一男さんにアドバイスして貰ったと聞いております。

東北電力を退職後、第二の職場として、東北発電工業に勤め、その後太田技術士事務所を開設し、水力、風力、火力発電の主任技術者として大活躍し、その肩書きは将棋連盟や地域活動を含め30いくつと聞いておりました。また、技術士会活動にも積極的で、平成15年頃から酒田地区の担当役員として広報活動に活躍してもらいました。私も一緒に酒田共同火力、東北発電工業、東北緑化、東北電力酒田技術センター、酒田営業所等を歩いたことが懐かしく思い出されます。最後に一緒に活動したのは、平成24年の「地域産学官と技術士セミナー」で東北電力山形支店への訪問でした。

しかし、電力時代の若い頃に胸を患ったようで、体力があるうちは元気でしたが、平成25年あたりから再発したとのこと、幾つかの病院で診察を受けましたが、肺機能が半分しか機能していないと言われ、治療法がなく静養していたようです。

平成26年には頑張って日本技術士会の総会に出席、長年の活躍で会長表彰を受けました。平成27年6月にはアメリカ在住の末娘もお見舞いに帰国したそうで、きっと最後の別れと思っていたのではと心が痛みます。

太田さんは、頼まれるとイヤと言えない性格で、数えきれない肩書きがありましたが、平成25年あたりから、計画的に後継者に移譲していたようです。その生き様も見事というしかありません。

太田さんの人生で特筆ものは将棋四段でしょうか。いつだったか、技術士会活動の途中で酒田の自宅に寄せて貰ったことがありました。奥さんの美味しいコーヒーを戴きながら、日本棋院四段の認定証を見せて貰いました。厚紙かとおもいきや、布に近いもので長さ80センチほどの巻物でした。末尾には大山康晴、羽生善治他の日本将棋連盟の有名人の名前が連ねてありました。将棋連盟の酒田支部長を要請されたそうですが、多忙のため固辞し副会長職で貢献したと聞いてます。

毎年の技術士全国大会には、奥さん同伴で参加しておりました。奥さんの慰安を兼ねて、全国の会員と交流して元気を貰い、奥さん孝行していたのだと思います。

仕事にも趣味にも、飛び切りの活躍をした太田さん、見事な生涯でした。

ご冥福を祈ります。 以上



（以前、太田さんから寄稿頂いた時に、同封してありました写真を、このたびの記事に使わせていただきました。）







公益社団法人日本技術士会東北本部  
山形県支部

山形市松波四丁目12-3  
榑田村測量設計事務所内

電話 023 (642) 6644  
Fax 023 (642) 6654

## 豊かな地域社会の創造に技術士の活用を

### 山形県支部（山形県技術士会）の趣旨

山形県支部は、会員の品位と資質を向上し、高度化、総合化等が進展する近時の科学技術に関する業務を行う者として、名実ともに社会的地位を保つよう、会員相互の連絡・協力・研修等を通して、技術者の指導・育成、技術士業務の普及・啓発を行うことを目的としています。

#### 平成28年度技術士2次試験受験研修会のお知らせ

山形県支部主催の技術士2次試験のための受験体験研修会が下記の通り開催されます。山形県支部発展、ひいては県土の発展のため、ぜひこの研修会をご活用くださるよう、職場の同僚や後輩の皆様をお誘いくださるよう、お願いいたします。

日時：平成28年4月22日（金）13：30～

場所：山形県産業創造支援センター

講師：電気電子部門1名・農業部門1名・建設部門2名

### 日本技術士会東北本部山形県支部（山形県技術士会）の事業活動

- (1) ホームページ等による会員及び一般の方々への情報案内、技術士受験研修会・講演会などの開催、技術士制度並びに技術士資格の活用・普及・啓発・その他の事業を行っています。
- (2) 技術士の社会的地位向上のための活動及び各種情報の提供を行っています。
- (3) 現地見学会や会員研修等を通して、会員相互の技術の向上、啓発、研修に関する事業を行っています。
- (4) 会員、公益社団法人日本技術士会並びに同会東北本部との連絡と協力に関する事業を行っています。
- (5) 各種講習会、セミナー等への講師派遣及び各種分野の技術指導に関する事業を行っています。

### 編集後記

今年の冬は例年と比較して異常に雪が少なく、朝の雪かきが楽だったことを喜ぶ人がいれば、建設業者は全くの赤字だったとの恨み節も聞こえ、一口に小雪と言ってもその立場立場によって感じ方は全く違うものです。

山形県支部の発展に大きく寄与された太田勝之さんが昨年9月に亡くなりましたが、そんな訃報を聞いたと聞いていたら、先月に小関恒夫さんが亡くなったとの突然の知らせを受け、またまた驚いてしまいました。

小関恒夫さんは山形県技術士協会発足時のメンバーであり、まだ山形県に技術士会自体が存在しなかったため、東北技術士協会に最初に入会したとお話をご本人

よりうかがいました。県技術士会の役員を長年務められ、晩年は地区の自治会長など地域貢献に一生懸命だったとお噂を耳にしました。小関さんは非常に温かな方で、新参者の私に大変優しく接して頂いた記憶が残っております。

太田勝之さんとは、合格年度が一緒に、東北技術士協会主催の合格祝賀会に出席した時、偶然にも隣の席にいらっしゃったのが太田さんでした。太田さんの第一印象は、物腰が柔らかな中に凛と筋が通っており、まさにダンディとはこういう人と言うんだろうなあって思いました。役員会や懇親会などで色々とお話をさせていただきましたが、電力分野の話はもちろんのこと、日本経済のことまでそ

の知見は多岐にわたり、大変感心いたしました。

県内には大きな業績を残された偉人はたくさんおられますが、やはり最後は“業績”よりもその人の持つ“人間性”に尽きるように思います。

そんな風なことを考えますと、太田勝之さんも小関恒夫さんも、まさに“記録”よりも“記憶”に残る人だったと思います。（豊島）



（平成28年4月5日 葉山連峰）